

違憲ならば政府は安保法案を引っ込めるべき！ 河野洋平元衆議院議長が見解を示す

7月29日、河野洋平元衆議院議長（自民党）が名古屋市で、安全保障関連法案や従軍慰安婦などの問題について講演したと、『東京新聞』が7月31日報道しました（右下の記事参照）。

河野元議長は、安全保障関連法案について、「政府は一度法案を引っ込め、みんなが基本的に合憲だと認める案の上に、安全保障政策を論すべき。日本の平和主義は、例えば非核3原則や武器輸出3原則といったもの。これらの中心に憲法9条がある」と見解を示しました。

また、従軍慰安婦問題については「女性たちは、総じて本人の意思に反し、甘言などでだまされ連れてこられた。1日に何人もの相手をさせられ、拒否することができない。広義の強制性を含む意味で強制連行と申し上げた」としています。

全くその通りで、この見解に賛同します。

安倍政権は、歴史を歪曲しようとしています。そして、同じ自民党議員の意見を無視してまでも、独裁路線を突き進んでいるようにしか思われません。安倍政権は、違憲である安保関連法案を直ちに撤回し、従軍慰安婦問題に真摯に向き合うべきです。

従軍慰安婦は強制連行だった！

河野洋平元衆議院議長は二十九日、名古屋市内にあった第四十八回自民党大会（中日新聞社主催）で講演し、従軍慰安婦問題への自民党の関与と強制性をめぐり、強硬な立場をめぐって自民党内で折衝の上で行っていることに対し、「容赦なく自分の責任を押しつけて、一日に何人も相手をせられた。あったらいいから強要された」と述べた。

自民党内には、従軍慰安婦問題の強制連行はなかったと主張する声もあつた。河野氏は、談話で日本軍の強制連行はなかったと主張する声もあつた。河野氏は、談話で日本軍の強制連行はなかったと主張する声もあつた。河野氏は、談話で日本軍の強制連行はなかったと主張する声もあつた。

河野氏は、談話で日本軍の強制連行はなかったと主張する声もあつた。河野氏は、談話で日本軍の強制連行はなかったと主張する声もあつた。河野氏は、談話で日本軍の強制連行はなかったと主張する声もあつた。

河野氏は、談話で日本軍の強制連行はなかったと主張する声もあつた。河野氏は、談話で日本軍の強制連行はなかったと主張する声もあつた。河野氏は、談話で日本軍の強制連行はなかったと主張する声もあつた。